

コンタクインというものがある。まだ耳慣れぬ人もいるかと思うが、東横インやホリデーインのようなホテルの名前とは違う。これからたびたび耳目に触れると思うので、覚えておくとなあなたのインテリジェンスをあの人にアピールできる。かも知れない。

コンタクとは、沖縄の言葉でおしゃべりとか、井戸端会議のような意味である。そこには肩の力を抜いた、のんびりとしたニュアンスがある。決して眉間にしわを寄せたりイライラするものではない。

インは英語のin。何かの後ろにくっつくとナイスな働きをするなかなかの優れものである。Teach-inならベトナム反戦運動の中で生まれた、学生と教員の討論集会のこと。sit-inなら公民権運動の中であみ出された座り込みだし、die-inは核兵器への反対表明のため死体のように横たわる行動がその始まり。総じて世の中の無茶苦茶なことに対する抗議行動につけられている。

かの信頼できそうな辞書、ルーペディア(Loupedia)によるとコンタクインとは、

「語学カリキュラム問題渦巻くな  
か、琉球大 占拠キャンプで始  
まった、ご飯を食べながら語らう  
長時間宴会のこと、かもしれない。  
ハワード・ジン なき琉大では専  
任教員が頼りないことが確認さ  
れ、教える＝教えられる関係は  
変幻自在、誰もが料理当番だっ  
たりした感じも、イ感じだったの  
かもしれない。」

# WHAT'S "コンタクイン" ! ?

コンタクインおにぎり大使  
タイラテツに訊く  
文＝タイラ☆テツ

とある。沖縄のゆんたくとアメリカ由来の抗議行動とのハイブリッドな行動様式がコンタクインなのだ。そしてその発生は神出鬼没。前回は4月29日晴れたよき日の昼下がりから、琉大図書館前の芝生エリアにて確認された。集まりの悪いルー大生がポツリ、ポツリと現れる中、泡瀬のジュゴン訴訟をめぐる環境アセスについての休日出張講義が開かれ、日が暮れるのを待ちきれず月桃の葉にきれいに並んだオムスビと具沢山の鳥汁を食しつつ宴会、ゆんたくが始まった。この夜の話題は「廃墟のなかの大学・条件なき大学」と「沖縄と大学」。沖縄で大学がいかにして「大学」として育ってきたか、そして今、その生い立ちを忘れ、マーケットの要請に応える事を至上命題としている現状についてそれぞれの思いを口にした。また、コンタクインそのもののあり方にも話題は及び、発展過程のコンタクインはエクセレントな、いやいや、未知の変化を起こすだろう。

その新たなコンタクインの次回の予告。5月22日金曜日、晴れたら昼過ぎから準備開始、コンタクインはおそらく6時ころから。ただしみんなの腹の減り具合や手際によって前後する可能性大。場所は琉球大学図書館前占拠キャンプサイト。メニューは具沢山のミネストローネもどきその他。ゲストにジャック・デリダの弟子で一橋大学教授の鶴飼哲さんを迎える予定。モチロン誰でもゲストになれる。これを読んだあなたも。予約不要、当日気が向いたらふらりと現れればいい。その後は食べ物のいい香りに身を任せるのだ。

なお、このコンタクインは皆様の温かいカンパもお待ちしております。